

プラネタリウム & 天体観察会

～「星取県」で 昼も夜も星空満喫～

定員32名で実施中

1. プラネタリウム ☆平日3回、土日祝4回投影

さじアストロパークのプラネタリウムは、前半が専門職員による生解説、後半は、オリジナル番組「鳥取の星空(4K リマスタリング版)を12月16日(水)から投影しています。プラネタリウム室の換気設備が増強され、定員がこれまでの24名から32名になっています。感染防止につきましてはこれまで通りご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

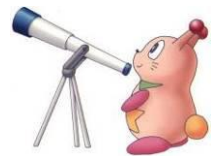
テーマ番組・オリジナル番組「鳥取の星空」3月14日まで投影

オリジナル番組「鳥取の星空(2017年制作番組を4K化)を投影しています。「星取県」の美しい星空、きれいな星空が見られるわけなど、プラネタリウム番組でご紹介します。

2. 103cm大型望遠鏡で天体観察会

定員32名、要予約で実施中

103cm大型望遠鏡を使った「天体観察会」は、現在、曜日に関係なく予約制でおこなっています。新型コロナウイルス感染防止対策として、①定員を32名 ②事前予約 ③マスク着用 ④緊急連絡先の提出 をお願いしていますのでご了承ください。4階観測室の換気設備が増強され、定員がこれまでの24名から32名になっています。感染防止につきましてはこれまで通りご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。個人の方(お一人からご予約できます)は予約日の前の開館日・午後5時まで、団体の方は1カ月前までにご予約の上ご利用ください。



1月の注目天体情報

☆見ごろの星座

見ごろの星座は「おうし座」です。1等星「アルデバラン」があり、また肉眼でも見ることができる星団「すばる(プレアデス星団)」「ヒアデス星団」がありますので、見ごたえがあります。

☆「すばる」が見ごろ

清少納言(せいしょうなごん)が書いた「枕草子(まくらのそうし)。「春はあけぼの・・・」が有名ですが、ずっと読み進んでいくと「星はすばる」という一節が出てきます。「すばる」が日本固有の呼び方で、清少納言の時代から注目されていたことがよくわかりますね。肉眼でも見ることができる星団ですが、双眼鏡や望遠鏡で観察するとよりたくさんの星が集まっている様子がわかります。

☆1等星巡り

明るい星を望遠鏡で観察すると、それぞれの星の色の違いがよく分かります。おうし座の1等星アルデバランや、ぎょしゃ座の1等星カペラなど、冬の星空の1等星巡りを楽しみましょう。

☆テレビ観望システム

「3密」軽減と天体観察会の魅力アップのために導入した「テレビ観望システム」。3密が予想される毎週土曜日の観察会は、103cm大型望遠鏡で天体を直接観察することに加え、リアルタイムにモニターに映し出される天体映像を、専門職員の解説付きで観賞していただけます。



観察会のイメージ

